

# ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染症 予防接種について

健康課健康増進係 ☎(63)8311

子宮けいがんを予防するためのHPVワクチンの接種を無料で受けることができます。  
HPVワクチンの有効性・安全性（リスク）をご理解の上、接種を検討してください。



## ヒトパピローマウイルス感染症とは

ヒトパピローマウイルス (HPV) は、性的接触がある女性の50%以上が感染するとされているウイルスです。子宮けいがんをはじめとした多くの病気に関わっています。

## 子宮けいがんとは

子宮の出口（けい部）に近い部分にできるがんで、20～40歳代の女性が多く発病します。  
ほとんど自覚症状がなく、気付きにくいがんです。日本では約1.1万人の女性がかかっており、亡くなる人や治療で子宮を失う人もいます。

## HPVワクチンの接種について

**接種回数** 間隔を空けて3回接種する必要があります。接種期間内に打てるようにしましょう。

### 定期予防接種

**対象者** 小学6年生から高校1年生相当の女子  
**費用** 無料  
**接種期間** 16歳となる日の属する年度の末日まで  
※1 中学3年・高校1年相当の人には5月頃、中学1、2年生には順次通知を送付しています。

### キャッチアップ接種

勸奨の差し控え※2により接種機会を逃した人に対し、下記の接種期間において、定期接種の対象年齢を超えた人への接種を行います。  
**対象者** 平成9年4月2日～平成18年4月1日生の女性  
**費用** 無料  
**接種期間** 令和4年4月～令和7年3月までの3年間  
※対象者に順次、個別通知を行う予定です。

※1 予防接種の詳細については、市ホームページをご覧ください。

※2 HPVワクチンの接種後に報告された多様な症状等について、適切に情報提供ができず、一時的に勸奨を差し控えた時期がありました。

## HPVワクチンの効果

HPVワクチンは、子宮けいがんをおこしやすいタイプであるHPV16型と18型の感染を防ぐことができます。ワクチンで防げるHPV16型と18型が、子宮けいがんの原因の50～70%を占めます。

## HPVワクチンのリスク

多くの人に、接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。ワクチン接種後に稀ですが、重いアレルギー症状（呼吸困難やじんましんなど）や神経系の症状（手足の力が入りにくい、頭痛・嘔吐・意識の低下）が起こることがあります。また、広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動といった多様な症状が報告されています。

ワクチンや副反応については、厚生労働省のホームページやお手元に届いた通知をご覧ください。

厚生労働省 子宮けいがん

Q 検索



## ●子宮けいがん検診もあわせて受診しましょう

子宮けいがんに対して私たちができることは、HPVワクチンの接種と子宮けいがん検診の受診の2つです。

子宮けいがん検診で  
がんを早く見つけて治療



HPVワクチンで  
HPVの感染を予防

ワクチンを接種していても、していなくても、20歳になったら  
2年に1回、必ず子宮けいがん検診を受けてください。